

## 福岡県公安委員会活動状況

### <定例会の主な議題及び要旨>

令和3年7月21日（木）

#### 【報告事項】

#### 1 令和3年上半年期における懲戒処分状況について

（警務部）

警察本部から「本年上半期の懲戒処分者数は2人で、前年同期比で4人減少している。処分種別では、停職が1人、減給が1人で、いずれも私行上の事案である。前年同期と比べ減少しているが、今後も非違事案の未然防止に向け、業務管理・人事管理の徹底及び職務倫理教養の充実を図り、厳正な規律の保持と士気の高揚に取り組んでいく。」旨の報告があった。

#### 2 刑法犯の認知・検挙状況等について（1～6月）

（生活安全部・刑事部）

警察本部から「刑法犯認知件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で減少している。認知状況の特徴として、空き巣や忍込みなどの侵入盗が減少している。性犯罪の認知件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で増加している。認知状況の特徴として、福岡地区の強制わいせつの増加が顕著である。特殊詐欺の認知件数及び被害額は、ともに前年同期比で増加している。認知状況の特徴として、還付金詐欺の手口が急増している。」旨の報告があった。

公安委員から「刑法犯認知件数が減少している要因は何か。」旨の発言があり、警察本部から「各警察署の犯罪発生状況に応じて、重点的に取り組む罪種を設定し、発生時間帯や場所の分析を踏まえた警戒活動を推進するなど個別具体的な対策を講じているほか、地域住民による防犯ボランティア活動などが効果を上げているものと考えている。引き続き、予防と検挙を両輪とした対策を推進していく。」旨の説明があった。

公安委員から「性犯罪の認知件数が増加していることから、女性の自主防犯意識を高める広報啓発活動や発生実態を踏まえた予防活動をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「今後も、性犯罪の発生状況を分析しながら、効果的な対策を推進していく。」旨の説明があった。

公安委員から「特殊詐欺では、還付金詐欺が大幅に増加していることから、効果的な対策をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「これまでの還付金詐欺対策として、金融機関と連携し、ATMからの引き出し上限を設定したり、高齢者の引き出し制限を設けたりするなどの対策を行い、一定の効果があつたが、今年に入り、還付金詐欺が増加傾向にあることから、現状をよく分析し、更なる効果的な対策を推進していく。」旨の説明があった。

#### 3 ストーカー、DV及び児童虐待事案への対応状況について（1～6月）

（生活安全部）

警察本部から「ストーカー事案の相談等件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で減少している。DV事案の相談等件数は、前年同期比で減少し、検挙件数は増加している。児童虐待事案の通告児童数及び検挙件数は、ともに前年同期比で増加している。」旨の報告があった。

公安委員から「児童虐待事案の通告児童数が大幅に増加しているが、検挙件数がそれほど増加していないのはなぜか。」旨の発言があり、警察本部から「通告児童数の態様としては、面前DVを含む児童の心理的虐待が約8割を占めており、この通告児童数が

増加している。また、検挙しているのは主に身体的虐待であり、心理的虐待については警告措置を講じたり、DVで検挙する場合があることから、児童虐待の検挙件数とは連動していない。」旨の説明があった。

公安委員から「ストーカー・DV事案の相談件数が減少した要因は何か。」旨の発言があり、警察本部から「減少した要因は明らかではない。警察としては、事案が潜在化しないよう情報収集に努めるとともに、前兆事案も含めて積極的に対応していく。」旨の説明があった。

#### 4 殺人未遂事件被疑者の逮捕について

(生活安全部)

警察本部から「早良警察署及び少年課は、4月17日、福岡市城南区所在のマンション通路において、殺意をもって後方から被害者の頸部を紐様なもので締め付けたが、被害者が助けを求めるとしたため、その目的を遂げなかった殺人未遂事件について、7月13日、福岡市城南区居住の無職の少年を逮捕した。」旨の報告があった。

#### 5 出入国管理及び難民認定法違反事件等の捜査の終結について

(暴力団対策部)

警察本部から「博多臨港警察署ほか2警察署及び国際捜査課並びに福岡出入国在留管理局は、志免町所在の建物の管理や陸上運送業等を営む会社において、在留期間を経過して不法に残留するベトナム人を同社の派遣労働者等として、県内の解体現場等において不法就労活動をさせた出入国管理及び難民認定法違反事件等について、福岡市東区居住のベトナム国籍の男性ほか5人を逮捕した。また、本事件は、裁判所に対し、不法就労助長に係る犯罪収益の没収保全請求を実施した結果、同命令が下されるに至り、捜査を終結した。」旨の報告があった。

#### 6 交通事故の発生状況等について(1～6月)

(交通部)

警察本部から「交通事故の発生状況等は、発生件数及び死者数は、ともに前年同期比で減少している。特徴として、歩行中の死者数が減少したが、自転車関連事故が増加した。飲酒運転事故の発生状況等は、発生件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で減少している。特徴として、飲酒運転事故の半数以上が昼間帯に発生し、高濃度アルコール保有者の事故が約8割である。」旨の報告があった。

公安委員から「自転車関連事故が増加しているが、どのような事故形態なのか。また、中高生による自転車の二人乗り運転など交通法規を遵守していないケースが散見されることから、特に若年層に対する自転車安全教育をお願いする。」旨の発言があり、交通部長から「自転車関連事故の主な形態は、車との出会い頭が約5割、車との交差点右左折中の事故が約3割である。また、中高生等の若年層に対しては、引き続き、学校など関係機関と連携し、効果的な広報啓発を始め自転車の安全利用に関する教育を地道に推進していく。」旨の説明があった。

公安委員から「歩行中の死者数は減少しているが、死者数の中では主な形態になっているため、引き続き、各種対策をお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「交通事故抑止対策については、歩行者の安全確保に重点を置き、横断歩行者等妨害等違反や生活道路等における速度超過違反の取締りを強化しており、歩行中の死者数が減少している一つの要因であると考えている。今後の対策としては、取締りと併せ、道路管理者と連携し、危険箇所の把握・改善などハード面の対策を強化していく。」旨の説明があった。